

實相寺花園會報

ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ
ナガモヒロ

一遍上人語錄

本旨を感じたのである。」
「一遍上人語録 捨て果て

より

【より
坂村真民

大藏出版

實相寺花園會報

令和七年
十二月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文国
<https://www.iisouji.net>

第200号

一周忌☆	令和七年（110115）
三回忌☆	令和六年（110114）
七回忌☆	令和二年（110110）
十三回忌☆	平成二十六年（110114）
十七回忌	平成二十二年（110110）
二十五回忌	平成十四年（110011）
三十三回忌☆	平成六年（一九九四）
五十回忌	昭和五十二年（一九七七）

印は十三仏事

令和八年年忌法要早見表

して駆り出された農民も多かつたでしょう。その頃の人々は常に死と隣り合わせです。治安も悪く、いつ斬り殺されるか判りません。しかし平和な江戸時代、死は非日常になり、さぞ寿命も延びたことでしょう。そうした時代に流行したのが『父母恩重経』なのです。

また中国成立の『父母恩重経』は、儒教や道教の影響も受けています。そこには年寄りのあるべき姿も説かれている気がするのです。

2023年の平均寿命は男性81歳、女性87歳でした。現代では幾つになつても元気で変わらないことが良しとされ、老いることは忌み嫌われます。でもそれって不自

然じやないですか？

年齢にかかわらず、私は人には「年相応の生き方」というのがあると思います。しかし、戦後の日本ではそうした「分を分ける」というような考え方、「平等じゃない、自由じゃない」と否定されました。その結果、何でも自分の思い通りになることが幸福になりました。ただ、実際にはそうはいきません。だから今は自らの不幸を嘆く人が多いのかも知れません。

来るべき未来を見据えるには、過去を振り返ることも重要です。もし両親の生き方から見えてくるものがあれば、それが最後に残された父母の恩だと思うのです。（終）

「父母恩重経を読んで⑩」「諸行無常」「諸法無我」（全ての存在は移ろい行き、不变の存在は無いこと）こそが、お釈迦さまのお悟りの根源であり、それに気づくこと、それを受け入れることが「涅槃寂靜」（穏やかな境地）へと続く仏教の教えです。

人は誰もが歳をとり、やがては死すべき存在です。これは自然の摂理ですが、江戸時代の狂歌師、大田南畠が辞世の句で

「今まで人はのことだと思ふたに俺が死ぬとはこいつはたまらん」と詠ったように、頭では理解しているつもりでも、実際にはなかなか受け容れ難いものです。だから

経には、単に親の恩だけでなく、年老いた親の様子も詳細に描写されていました。これは中年以上の人に、これから老していく自分の立場がどうなるかとか、若き日の自分が老親にどう接してきたかを思い起こさせる為に説かれているのだと思います。つまり来たる老いを見据えると共に、自らの人生を振り返る契機となるのが『父母恩重経』なのです。

かの豊臣秀吉も足軽の出身だと言われますが、戦国時代は兵士と

こそ、人は老いることや死ぬことへの心構え、学びが必要なのではないかと思っています。

これまで読んできた『父母恩重